すぐそこにある、大人達の戦い

エンジンの咆哮、オイルの匂い。スピードへの陶酔感…。
闘争本能を呼び覚ます大人の真剣な遊び、それがモータースポーツである。
モータースポーツに心動かされ、しかし憧憬のみで踏み止まざるをえなかった大人たちに
aheadは新たなモータースポーツの場を提起したい…R/Cという戦いの場を。
大人たちよ、モータースポーツをあきらめてはいけない。
競いあう本能の牙を鈍らせてはならない。

文・世良耕太　写真・高島秀吉

KYOSHO CIRCUIT PARTS SHOP
●住所：神奈川県厚木市船子153
●TEL：046-229-1562
●営業時間：平日12:00〜21:00(水曜定休)、
土日祝9:00〜12:00および13:00〜18:00
●コース使用時間：
平日17:00〜21:00、土日祝9:30〜18:00
●URL：
www.kyosho.com

初心者歓迎！毎時00分〜15分はR/Cビギナー優
先時間になるので、気軽に問い合わせを。

愛車を持ち込み、自らの手で綿密にセッティングし、操縦する。競い合う仲間がいれば、おのずと心は高揚し、闘争本能に火がつく。アフター5のR/Cサーキットは、日が暮れるにつれて熱さを増していく。

東名・厚木ICから5分の好立地に、サーキットがある。平日の夕暮れ時に訪れれば、聞こえてくるのはエンジン音。それも高回転エンジン特有の甲高いサウンドが響き渡っている。耳を澄ませば、右回りコースの高速最終コーナーを立ち上がり、メインストレートの中程でエンジンサウンドが節を付けるのが分かる。遠心クラッチが作動し、ギヤが高速段に切り替わったのだ。

走行しているのは1／10あるいは1／12スケールのR／C。注意深く観察すると、コーナーの進入で実車と同じように車体がロールするのを確認することができる。

シャシーを見て驚いた。まるでレーシングカーだ。エンジンはミッドに搭載。フロントサスペンションはダブルウィッシュボーン、リヤサスはいかにも剛性の高そうなプレートに固定され、それぞれに金属の質感がまぶしいアルミケースのダンパーと、彩色が施されたコイルスプリングを備える。本格的な機構、そしてパーツである。

手のひらにタイヤを包んで動かしてみると、アームの動きと連動してコイルスプリングが伸び縮みをする。サスペンションユニットの動きと、それに連動して手に伝わる抵抗感を繰り返し確かめるだけでも楽しい。

コース脇のピットでツールボックスを広げ、愛車の整備に熱中する人、操縦台で送信機を操る人はもっと楽しそうだ。みな大人。カジュアルな格好でR／Cと格闘する大人もいれば、ネクタイ姿で腕まくりをし、ドライバーを握る大人もいる。一見すると近寄りがたい雰囲気を発散しているように感じられるが、趣味に没頭する子供と同じだと考えれば微笑ましい。目の前のモノに神経が集中し、まわりに意識が向かないのである。大人を童心に返らせる魅力がR／Cにあるのだろう。

その秘密の一端を理解した気がする。R／Cオーナーにとれば、京商サーキットを訪れてからというもの、取り組むべき課題が無尽蔵にあるからだ。オーナーは車両のセットアップエンジニアであり、メカニックであり、車両や路面からのフィードバックに全神経を集中させるドライバーでもある。

リヤの動きが軽いと感じたとき、レーシングドライバーならその挙動をエンジニアに伝えれば済むが、R／Cの場合は自分の手を動かして調整する必要がある。そこが醍醐味。ジオメトリーを調整するのか、ダンパー＋スプリングユニットで対処するのか、タイヤのスペックを変更するのか、解決法を考えては試すだけで、時間はあっという間に過ぎていく。レーシングカーのセットアップの基本は弱アンダーだが、それはR／Cも同じ。スケールが異なるだけだ。

東京から小一時間でたどり着くR／C専用サーキット。そこは大人をリアルで知的なモータースポーツに引き込む戦場だった——。